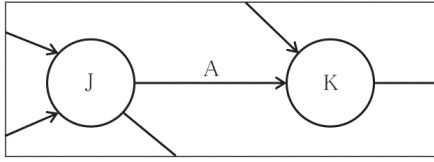


運営管理

令和6年度 中小企業診断士1次試験

本試験 第2問

下図は、あるプロジェクトにおけるPERT図の一部を切り出した図である。作業Aの作業時間は3日であり、作業Aはクリティカルパス上にある。PERT計算に関する記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



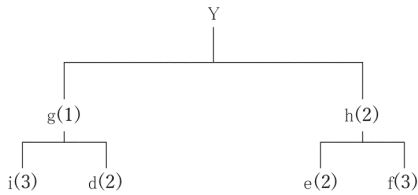
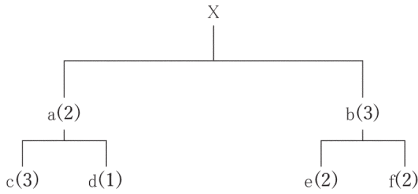
- a 作業Aの作業時間が2日増えると、クリティカルパスは変わることがある。(×)
- b 作業Aの作業時間が2日減ると、クリティカルパスは変わることがある。(○)
- c 結合点Jの最早結合点時刻が2日遅れると、全体のプロジェクト完了までの期間が必ず2日長くなる。(○)
- d 結合点Jの最早結合点時刻が2日早まると、全体のプロジェクト完了までの期間が必ず2日短くなる。(×)
- e 結合点Kの最遅結合点時刻が2日遅れると、全体のプロジェクト完了までの期間が必ず2日長くなる。(○)

〔解答群〕

- ア a:正 b:正 c:正 d:誤 e:誤
 イ a:正 b:正 c:誤 d:正 e:誤
 ウ a:正 b:誤 c:正 d:誤 e:誤
 エ a:誤 b:正 c:正 d:誤 e:正
 オ a:誤 b:誤 c:誤 d:正 e:正

本試験 第5問

下図は、最終製品XとYの部品表であり、()内は親品目1個に対して必要な部品の個数である。製品XとYを2個ずつ生産するときの必要部品数量に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



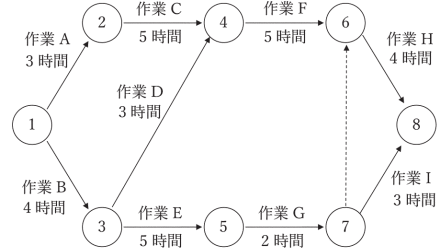
〔解答群〕

- ア 部品aは2個必要である。
 イ 部品dは6個必要である。
 ウ 部品iは8個必要である。
 エ 部品共通化により部品hが部品bで代替された場合、部品bは10個必要である。(○)
 オ 部品共通化により部品iが部品cで代替された場合、部品cは15個必要である。

2024年合格目標 TAC教材

1次上級答練 第7問

以下は、あるプロジェクトにおけるPERT図であり、各作業の作業所要時間の予定が記載されている。この図のプロジェクトに関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。 7

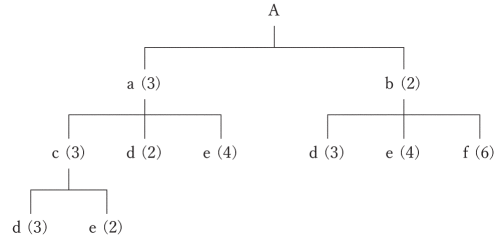


〔解答群〕

- ア 作業Cの終了時刻が2時間早くなった場合、プロジェクトの完了時刻が2時間早くなる。
 イ 作業Dの開始時刻が2時間早くなった場合、プロジェクトの完了時刻が2時間早くなる。
 ウ 作業Fの作業所要時間が1時間短くなった場合、プロジェクトの完了時刻は変わらない。
 エ 作業Fの作業所要時間が2時間長くなった場合、クリティカルパスは変化しない。
 オ 作業Hの作業所要時間が2時間短くなった場合、クリティカルパスは変化する。

1次養成答練 第4問

下図は、最終製品Aの部品構成表であり、()内は親1個に対して必要な部品の個数である。製品Aを2個生産するとき、必要部品数量に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。 5



〔解答群〕

- ア 部品cは9個必要である。
 イ 部品dは78個必要である。
 ウ 部品eは72個必要である。
 エ 部品fは48個必要である。

本試験 第10問

- a オダゲントリー方式では、顧客が要求した納期どおりに生産するために、受注したオダゲを製造設備の使用日程や資材の所要予定などに割り付けて生産する。(×)
- c 生産座席予約方式では、生産工程において生産中の製品に顧客のオダゲを引き当て、顧客の要求に応じて生産中の製品仕様の変更や変更を行う。(×)
- d 製番管理方式では、製造命令書において、対象製品に関する全ての加工および組み立ての指示書を準備し、同一の製造番号を付けて管理する。(○)

1次上級答練 第5問

- ア 生産座席予約方式は、生産設備の日程などにオダゲを割り付けて生産し、社内外にその情報を共有する生産管理方式である。
- ウ 製番管理方式は、顧客の注文ごとに製番を設定し、全ての管理を同一の製番をもに行うため、製番間の部品の融通などの管理を行いやすくなる。
- エ 追番管理方式は、顧客のオダゲを引き当て、製品の仕様の変更または変更をする生産方式である。

本試験 第15問

在庫管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア ABC分析の結果としてCに分類された部品に定期発注方式を導入することによって、発注の手間を省いた。(×)

1次公開模試 第9問

- ア 定量を発注する方式は在庫水準を最小にすることに適した方式であり、ABC分析におけるA品目でよく用いられる。(×)

本試験 第20問

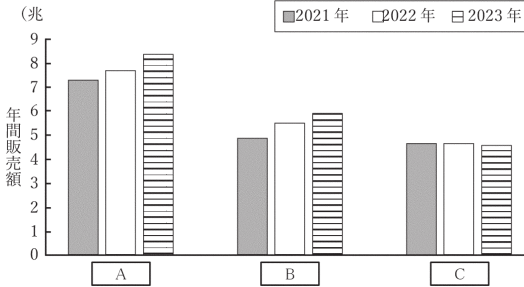
- b 製品の原材料の採取から、製造、使用及び処分に至るまでの環境負荷を総合的に評価するためにサーキュラーエコノミーを行った。(×)

1次公開模試 第21問

- c LCA(ライフサイクルアセスメント)とは、製品の製造、使用、廃棄に至るまでの期間を通じて、製品の環境への影響を調査、計量、評価する環境マネジメントの手法である。(○)

本試験 第22問

- b 製品の原材料の採取から、製造、使用及び処分に至るまでの環境負荷を総合的に評価するためにサーキュラーエコノミーを行った。(×)

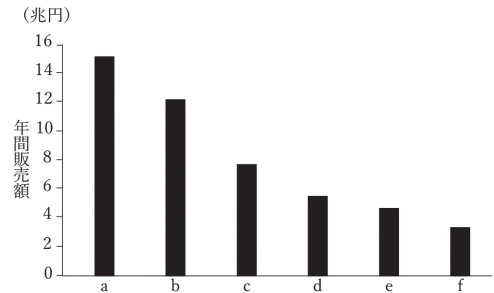


【解答群】

- ア A:スーパー B:コンビニエンスストア C:百貨店
- イ A:スーパー B:百貨店 C:ドラッグストア
- ウ A:ドラッグストア B:コンビニエンスストア C:百貨店
- エ A:ドラッグストア B:スーパー C:家電大型専門店
- オ A:ドラッグストア B:百貨店 C:家電大型専門店 (○)

1次完成答練② 第18問

下図は、経済産業省が公表している商業動態統計を基に、2022年における百貨店、スーパー、家電大型専門店、ホームセンター、コンビニエンスストアおよびドラッグストアの販売額を示したものである。図中のa～fに該当する小売業の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。 18



【解答群】

- ア a:コンビニエンスストア b:スーパー
- イ b:スーパー c:コンビニエンスストア
- ウ c:ドラッグストア d:百貨店
- エ d:家電大型専門店 e:ホームセンター
- オ e:ホームセンター f:ドラッグストア

本試験 第33問

小売店舗における在庫管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 定期発注方式を採用している場合、発注から納品までの調達期間のみを変更して長くすると、発注量を減らすことができる。(×)
- ウ 定量発注方式を採用している場合、安全在庫のみを変更して増やすと、発注点は低くなる。(×)
- オ 定量発注方式を採用している場合、発注量のみを変更して増やすと、発注点に基づく発注間隔は長くなる。(○)

1次完成答練② 第9問

- イ 定量発注方式の発注点は、需要量が一定とすると、調達期間が長くなるほど増加する。(○)

1次上級答練 第21問

- ア 定期発注方式を採用した場合、販売量を一定とすると、1回当たりの発注量は発注間隔を長くするほど少なくなる。(×)
- イ 定量発注方式を採用した場合、販売量の増加が続くときに発注点を変更しなければ、発注間隔は長くなる。(×)

本試験 第36問

- イ 平パレットを利用して貨物をトラックで輸送する場合、トラックの積載効率が低下することがある。(○)

1次完成答練② 第26問

- イ パレタイジングを推進することにより、荷役時間の短縮や積載率を高めることができる。(×)

本試験 第37問

- エ 店舗での発注から納品までのリードタイムは、在庫型物流センターよりも通過型物流センターを利用の方が短くしやすい。(×)
- オ 物流センターを利用すると、店舗に対する複数の納入業者からの納品を取りまとめることができ、店舗での荷受作業を軽減することができる。(○)

1次完成答練② 第25問

- エ 店舗の発注から納品までのリードタイムは、在庫型物流センターよりも通過型物流センターを利用の方が短くしやすい。(×)
- オ 物流センターを経由しない場合に仕入先の数だけ荷受が発生したとすると、通過型物流センターを経由する場合は荷受回数を減らす効果はない。(×)

本試験 第38問

- ア ASNは、荷受側が納品を受けた後に荷送側に対して送信する受領明細である。(×)

1次養成答練 第25問

- オ ASN(Advanced Shipping Notice)は、荷受側が作成したものを出荷側に送付し、出荷の誤りを防ぐために利用される。(×)